

プレスリリース（仮訳）

監査品質向上のための問題について議論するため、
40以上の監査監督当局の代表者が本会合に参加

監査監督機関国際フォーラム（IFIAR）のメンバーは、監査監督当局が関心を有する重要な問題について見識を共有し議論を行うため、今週、ワシントン DC にて開催された第 14 回本会合に参加した。同会合は、米公開会社会計監督委員会（Public Company Accounting Oversight Board: PCAOB）により主催された。

IFIAR メンバーは、世界市場における時価総額の約 80 パーセントに相当する国・地域で上場企業監査の監督を行っている。

メンバーにより議論された監査監督関連のテーマは以下を含む。

- ・ 6 大国際監査ネットワークの CEO により述べられた、発展を続けている監査法人の経済・ビジネスモデルが、監査品質に対するリスクを示しているか
- ・ いかにして監査を投資家や監査委員会のメンバーにとってより役立つものにできるか
- ・ 監査品質指標
- ・ 重要なシステミック・リスクをどのように特定し、監査監督においてどのように対処すべきか
- ・ 資本市場における監査監督の重要性（ポール・ボルカー元米連邦準備制度理事会議長による基調演説）及びサーベンス・オクスリー法の制定経緯（ポール・サーベンス元米上院議員による基調演説）

本日公表された報告書において、IFIAR はメンバーの検査指摘事項に関する第 2 回調査結果を公表した。報告書では、監査の重要な領域において継続して見られる問題が示され、監査品質に対する指摘事項が意味するものについての懸念が表明されている。

IFIAR は、監査品質の向上という目標に向けメンバー間での協力を強化していく。

2014 年本会合に関するファクトシートも入手可能。